|  |
| --- |
| 会議の結果 |
| 件　　　名 | 令和５年度田辺市社会教育委員会議　第４回定例会 |
| 日　　　時 | 令和５年12月18日（月曜日）　13時30分～15時10分 |
| 場　　　所 | 龍神市民センター　２階大会議室 |
|  | ○社会教育委員出席者８名：　尾崎委員、加藤委員、桐本委員、久保委員、西川委員、松場委員、宮本委員、柳川委員欠席者５名：　九鬼委員、小山委員、坂本委員、砂野委員、中根委員○事務局７名：　佐武教育長、前川教育次長、那須生涯学習課長、太田生涯学習課参事、下岡生涯学習推進係長、小林公民館係主査、小出生涯学習推進係主査 |

１．開会　教育長挨拶

２．議長挨拶

３．説明事項・報告事項

（１）第98回新春初泳ぎ・第40回新春初漕ぎについて

（２）第50回新春田辺長距離走大会について

（３）令和５年度第２回田辺市民駅伝交流大会～弁慶ＲＵＮ～について

（４）令和５年度「夢の教室」について

（５）文化振興課行事予定について

（６）南方熊楠顕彰館行事予定について

（７）令和５年度田辺市生涯学習フェスティバルの結果について

（８）第66回関西実業団対抗駅伝競走大会の結果について

以上の項目について、事務局より一括して説明及び報告を行った。

【質疑応答・主な意見】

　　　Ａ委員：12ページの生涯学習フェスティバルに関連してですが、ジャムの販売等もあったとお聞きしましたが、以前はできなくて今回になってできたということでしょうか。

　　　事務局：以前は、焼きそばの販売や福祉作業所の物販をやっていましたが、コロナですべて飲食関係はストップしていました。今年は、コロナが５類に引き下げられたこともありますが、生涯学習フェスティバルという機会に障害のある方や福祉作業所の皆さんと一緒に何かできないかとも考えておりまして、各事業所にお声掛けをさせていただきました。休日ということもあって指導される方の都合や他のイベント等との調整が難しいという話も多くいただきましたが、今回、なかよし作業所さんとふたば第二作業所さんがやっていただけるということでお願いしました。また、少しでも賑わいになればと思い、公民館主事もお手伝いする形で青年ネットワークの出店もさせていただきました。できれば、次年度もこうした取組を継続してきたいと考えています。

４．協議

（１）人材育成事業企画部会について、事務局より説明を行った。

　　　田辺工業高校出張講座のアンケート集計結果や当日の様子を踏まえ、各委員から発言いただいた。一般公開講座については、資料のとおり実施することを確認したほか、周知における事業タイトルの表現についても議論した。事業タイトルについては、公民館のしあさっての大里氏にも相談することとし、次回の人材育成事業企画部会において検討することとした。

【質疑応答・主な意見】

　　田辺工業高校出張講座アンケート集計結果について

Ｂ委員：高校の出張講座については、所用のため出席できていませんが、事前にいただいたアンケート集計結果を読ませていただきました。一度外に出てから地元に戻って暮らしたいという数が当初より増えているということを考えると、当初、就職や働くこと、地元に残ることについて漠然と考えていて、具体的なところまで考えていなかったんだろうなというところで、話を聞いて一度外に出てみたいと思えるというのは、聞く前より具体的に自分の将来について考えることができたんだろうなという気がしました。自分自身がいつから就職、働いて、稼いで、暮らしてというようなことを考えていったのかなぁと思い返すと、自分自身は工業高校だったので、当初から働くことを前提として高校に入りましたが、友達と話すときには、やっぱり高校１年生や２年生ではあまり考えていなかったというイメージがあります。そういうときに、こういった講座で、実際に働いている方の話を聞くということがとても刺激になるのではないかと、それがそのときすぐに結果として出なくても、将来的には出てくるのかなと思いましたので、すごく意義のあった講座だったんだろうなと感じました。やはり、こういったことも続けていければと考えています。中学校の講座に関しては、中学生にとっては刺激があったと思いますが、どうしてもハード的な問題で、登壇者と最後列の生徒の距離があまりにも離れてしまって、一体感がなかったという印象を受けました。後ろの方で騒がしくなって、先生に注意される生徒もいたので、できれば登壇者と距離が縮まった形、登壇者を囲む形や横長の形で講座ができたほうがよかったかと思いました。ただ、スペースの都合上、今回の形しかできなかったと思うので、仕方がないと思いますが、今後の実施にあたっては、会場配置についても考えていってもいいかと思いました。

Ｃ委員：中学校出張講座に関して、いくつかの要因が重なってのことと思いますが、後ろの方では講演内容が聞き取りづらく残念でした。構造上の問題もあると思いますが、他の教室からものすごい音がしていて、とても気になりました。慣れの問題で、マイクの距離感が安定せず、聞き取りづらい部分もあったので、その点はもったいないなと思いました。中学生はいろんな人のいろんな話を聞くべきだと思うので、私は岡野さんの話を、隣のお兄ちゃんがすごいラーメン屋さんをしていて、その経験を聞けたという感じで、何が売れているか、何がおいしいか、といったような雑談的な話にはなってしまいましたが、岡野さんが一所懸命にやってきたことは、ホリエモンとのエピソードや、あえて厳しい中華料理屋で修業してきた話で伝わったと思いますし、近所にこんな人がいるということがわかってよかったんじゃないかと思っていて、私自身も面白いお話を聞かせてもらえたと思っています。私も知り合いに今日聞いた話をして、ラーメン食べに行こうと誘うと思うんですが、それでいいんじゃないかなと思っていて、そこからが始まりで、岡野さんがこんなにやってきたということが中学生に伝わればいいと思いました。高校出張講座については、竹中さんの話がすごくよかったと思いました。ステップアップした感じで、しっかりと都会と地方の暮らしの違いみたいなのを教えてもらえたと思います。アンケートには、自分には関係ないという回答もありましたが、私は工業高校だから工業関係の人から話を聞かないといけないとは思っていなくて、いろんな人がどのようにして将来を決めてきたのかという話は、工業関係に限らず幅広くいろんな人の話を聞くのがいいと考えています。工業高校に進学したけど、次の進路は工業以外を選ぼうとしている生徒も中にはいると思いますので、いろんな人の成功例や失敗例を聞ける機会を作るのがいいと思いました。竹中さんの話はよかったんだなと、アンケート結果を見てうれしく思いました。

Ｄ委員：両方参加させていただきました。社会教育委員という立場と、仕事で就労支援をしているのでそういう２つの立場で、工業高校での話を聞かせていただきました。竹中さんの求めている人材というのが、レベルの高い仕事というか質の高い仕事をやろうとする若い人というのがすごく伝わってきて、気持ちだけで雇ってもらえるわけではないんだろうなと感じました。一つよかったのは、私も中学２年生や高校１年生のときに自分が将来働くなんてことは考えてはいなかったので、その年代の生徒さんがそうしたことを考えるいい機会になったと思っています。その中でも、外に出て働くのか、地元で働くのかという２択の問いだったのが、一回外へ出てまた戻ってくるのもありなんだということ、そういう働き方もあるということが高校生に伝わったというのが、アンケート結果に表れていると感じました。東陽中学校での講座について、私も最初から別の教室の声が気になっていて、音に敏感な生徒がいたら前よりも後ろが気になるだろうなと思いました。内容としては、成功したいという想いを強く持って、どんな厳しい修行にも耐え抜いてきた岡野さんがＯＢにいることを生徒が知るいい機会になったと思います。中学生であれだけの数の質問が出たことに驚いていて、生徒が興味を持ったという意味では、今すぐ将来のことに役立たなくても、じわじわと引き出しができて、ふと振り返ったときの気付きにつながるんじゃないかと思っています。

副議長：すごく面白かったと思います。アンケート結果も読みながら生徒たちに響いたんだろうと思う一方で、大人が喜びそうな書き方をしているんじゃないかと穿った見方も同時にしています。あからさまな設問の組み立てだったので、ただ、それでもこれを書いてもらったことに意味があったと思っていて、書くことで自分の中で考えるきっかけにもなったと思います。一度は都会へ出ていった方がいいと私も思っていますが、出ていったまま戻ってこないというリスクを考えれば、必ずしも出たほうがいいとか悪いということにはあまり触れなくてもいいかなと思わなくもなくて、自分の中でも定まっていませんが、そんなことを改めて思いました。東陽中学校の方は、岡野さんの凄さというか、鉄板を投げつけられたという厳しい修行を経験してきたことや、コロナで売り上げがゼロになったことなど、我々には耐えきれない厳しさだったと思うんですが、講演の中でもその話に触れてはいましたが、大変さや苦しさを全然出さないので、なかなか中学生には伝わっていなくて、そこを強く伝えてほしかったなと思います。質疑応答を聞きながら、講座の組み立て方や事前の講師との打合せが大事だと思いました。岡野さんが良い悪いという話ではなく、去年の中芳養中学校の様子とは全く違ったことを考えると、中学校への持っていき方というのは少し工夫が必要かと反省しています。先ほどから出ている会場の話は大変勉強になりました。縦長よりも横長の方がよかったと思いました。生徒たちは周りが少々うるさくても一度集中したら大人よりもずっと集中できると思っているので、会場の作り方も次に生かしたいと考えています。

Ａ委員：中学校の方は参加できなくて、皆さんのお話を聞きながらそうだったんだと思いながら勉強しているところです。工業高校の件ですが、前後左右の生徒と喋っている生徒が何人かいて、ちゃんと話を聞いているのか疑問に思っていましたが、アンケートで生徒の感想を読んで、副議長の言うように書かせるということは大事だと強く思いました。何人かですが、後ろを向いたり、つつきあいをしたりしている、そんな状態でしたが、書いたものを読んでみると、そんな風に思っていたのかと一人一人の書く文章に驚きました。その中でも、「地元にある良い企業にも目を向けていこうと思った。」という機械科の生徒がいて、あの状況でそんなことを考えていたんだなあとか、技術を学んで戻ってきたいとか前向きなことを書いてくれている生徒もいましたし、もう一つ凄いと思ったのが、「まず都会に出て、自分はどのくらいのレベルなのかを見たい」という回答を見て、教育の素晴らしい機会、生徒たちが挑戦してやってみようという気持ちを奮起したというのか、そういう内容だったんだと思いまして、現場で見ていた生徒の雰囲気から受けた印象とは全く違いました。大人として見ている状況からモノを判断しないで、もっと頭を柔らかくしつつ、子供たちを信じつついかないといけないと反省も含めて思いました。地域に貢献する生活を考えようかなんて、あの場で生徒の誰かが考えているとは思いもしませんでした。大変勉強になりました。

Ｅ委員：工業高校の件で、皆さんがおっしゃるように、寝ている生徒や喋っている生徒がいるなと私も思っていました。体育館の床に座らされて平面の声が流れてきているだけで、生徒たちに響いていないかと思ったんですが、結果を見てみると、講演を聞く前、聞いた後で結構な変化が出ていました。この設問は、前者は話を聞く前から元々持っていた考えで、後者は話を聞いた上で選択した回答だと思うので、竹中さんの話がちゃんと伝わったんだと感じました。中でも、「自分のレベルを上げる」ということは竹中さんが伝えたかったことだと思います。幸せになろうと思ったら自分のレベルを知って上げようとする努力も必要だと思うので、それが伝わったのはすごくよかったと思います。中学校の件ですが、騒がしかったり、岡野さんの声が届かなかったり、手を挙げているのに当ててくれなかったり、キャッチボールしているようでしていないような印象でしたが、中学生からしたら、自分に関心のない大人、自分を褒めることや叱ることのない大人に出会うことはこれまでなかったと思いますので、そんなときにお金を稼いでいる近くに存在する大人を知っただけで、生徒の人生の一つの分岐点になったかなと思うので、内容や環境が及第点に及ばないという反省点もあるかもしれませんが、お金を稼いでいる大人と出会ったという一つの事実はよかったかなと思います。

Ｆ委員：授業で書かせるということをやっていますが、それと授業態度が比例しないということはよく分かります。だからこそ、響いているという側面も言えるかもしれませんが、こんなことを書けば大人は喜ぶんだろうという分かってそんな書き方をしているという見方もできてしまいます。ストレートに見れば文章が書けるということはそれで素晴らしいという評価ができる一方で、授業態度と全然違うことがよくあり、文章を書くことを日本の教育は重視し過ぎているところがあるなと感じています。いかに文章だけで判断してはいけないかということは身に染みて思っています。

教育長：紹介した手前、工業高校は私も参加させていただきました。久しぶりに高校の集会形式でやっている授業を見せていただきました。小学校以降、キャリア教育を積み上げているんですが、その一環として高校生が地域で働いている方の話を聞くというのはいい刺激になってよかったと思いますし、中学校も母校の先輩が頑張っている様子を聞かせてもらうという経験は、学校の先生が授業で教える以外の生きた教材なので、本当に意義のあることだと思っています。ただ一点、工業高校も東陽中学校もそうなんですが、事前の準備をしておけば、こんな話を聞きたい、生徒に聞かせてあげたいと学校の先生は思いますし、子供は今こういったことに興味があるので、この部分を中心に膨らませてほしいと言えば、さらにいい話になっただろうし、事前に生徒にも共有できていれば、生徒も聞きたいことを整理して、その場でさっと質問ができるようにもできたと思います。ただ、お膳立てをし過ぎたら、形だけ整ってよかったという終わり方になってしまうこともあるので、今回はお膳立てをしていないからこそ、騒がしくなってしまったところもあったかと思います。工業高校も前列や中列にいる生徒は真剣に聞いていたと思います。一部で騒がしくしている生徒もいましたが、まだ、入学して半年程度しか経っていない１年生ですので、変に照れがあって格好つけているんだと思いますが、生徒たちにはいい刺激になったと思っています。東陽中学校も２年生が対象でしたが、今の３年生はかなり岡野さんと一緒に活動してきているので、その上で３年生たちが聞いていたら、また聞き方が違ったと思います。２年生にとったら、岡野さんとのかかわりは初めてだったので、３年生の先輩たちもお世話になっていて、自分たちもそういう機会があるということを事前に学校の先生から情報を入れておけば聞き方が変わったかもしれないと思いました。必要な事前準備はしつつ、だからといってやりすぎると優等生の返事しか返ってこないようなことにもなるので、そのあたりの調整が大人を相手にするよりも難しい部分があると思いますが、工夫しながらより良い形で進めていってもらえたらと思います。

一般公開講座開催要項（案）について

議長：出張講座の関連で、縦長より横長の方が登壇者と聴講者の距離が近くなるという意見がありました。田辺スポーツパークの多目的ホールも長方形なので、横長の会場配置でどうかと思いますが、いかがでしょうか。

一同：異議なし。

　　　　副議長：公民館関係職員の参加はどのように考えているか教えてください。

　　　　事務局：公民館主事と公民館長には参加を呼び掛ける予定としています。

　　　　　議長：趣旨にある「活動する」という表現はなくてもいいと個人的に思いますが、いかがでしょうか。

　　　　副議長：内部で設定している趣旨で、外部に向けた周知では使用しないと思うので、そのままでいいと思います。ちなみに、今のところのＦ委員の目論見、想いのようなところがあれば教えていただけますか。

　　　　Ｆ委員：小規模多機能自治の取組に関しては、現時点で触れない方がいいという話でしたので、目論見は半分外れているんですが、一番は議論で積み重ねてきたように、公民館の現代的解釈を公民館という言葉を使わずにどう表現するかというところが大事かなと思っています。なので、一番狙いたいところは、お客さんの層は今までとは異なる人に来てほしいと考えています。そうなったときのタイトルをどうしようかというところですが、市民カレッジという名称では来ないと思うので、そこの組み立てが大事だと考えています。タイトルを捻りすぎて、西山さんと大里さんが話す方向性とずれてしまうのも、期待を裏切ることになるので、西山さんと大里さんの話を踏まえつつ、新しいキャッチーなタイトルを考えられるといいと思います。後で紹介させていただこうと思っていたんですが、配布させていただいたチラシ「ＪＲきのくに線、その多様な価値を創出する」の本当の事業名は「令和５年度国土交通省地域交通共創モデル実証プロジェクト（人材育成）採択事業「鉄道のピンチに立ち向かえるパイオニア人材育成事業」なんですが、これを前面に出すと堅苦しいので、小さく目立たないところに表記して、別のタイトルをつけています。周知する上での事業名は協議いただきたいと思います。

　　　　　議長：チラシはいつ頃に出来上がる予定でしょうか。

副議長：そもそもチラシを誰がどのようにつくる段取りになっているか教えていただけますか。

　　事務局：従来、実施要項の内容を踏まえて事務局が作成しています。今回の定例会で要項（案）をご承認いただければ、その内容に基づいて作成し、次の部会でご確認いただけるようにしたいと考えていますが、ご承知のとおり現時点において事業タイトルの具体案を持っていない状態です。公民館のしあさって側にも相談したいとは考えていますが、主催側としての案も必要かと思いますので、本日ご協議いただければと考えています。

議長：次回の部会はいつ頃を予定していますか。

　事務局：１月９日（火）か16日（火）のどちらかで開催できればと考えています。

議長：時間を区切らないと延々と続けてしまうと思いますので、これからの10分間でアイデアを出す時間を設けたいと思います。キャッチーな言葉、タイトルを見たら行きたくなるようなキャッチコピーを委員の皆さんからご提案いただければと思いますがいかがでしょうか。とりあえず、「公民館のしあさって」という言葉を提案します。

Ｆ委員：公民館という言葉を入れた時点で、「自分には関係がない」となって来なくなるんじゃないかと思っています。みんなに関係があることで、でもその根源はたどってみると公民館なんですよ、という流れができるといいと思います。例えば、社会教育事業が全国的によくやられていると思いますが、公民館に来てそうじゃない層が来ているイベントから引っ張り出すというのも一つのアイデアかと思います。

議長：「みんなでつくるみらい」も記録しておいてください。

　　　　副議長：こちらで出すというよりも、公民館のしあさってに出してもらうというのはどうか。こちらの想いは一定議論して伝えているので、若い大里さんに考えてもらえないかと思っています。

　　　　教育長：以前、衣笠中学校で町内会離れを中学生が考えるということをやって、何が課題になっているのか区長さんから説明いただいて、中学生がこんなことができるんじゃないかと解決策を考えるということをやりました。月会費はいくらですかと聞くと、300円だというので、それくらいなら自分のお小遣いで払えるとか、それを払うのに困る大人がいるのかとか、なぜ入らないのかとか、中学生は純粋に自分たちが住んでいるところに入るのは当たり前じゃないのかという発想で、物事を考えて発言していたように思います。町内会のことを中学生が考えているんだから、大人ももっと考えようというような内容のタイトルがあれば、公民館について自然とみんなで考えるということにもなるんじゃないかと思う。対象が中学生以上ともなっているので、中学生から大人までみんなで考える地域の在り方というような感じでもいいかと思います。

　　　　Ｅ委員：「こうしよう、みんなでしよう、かんだんかい」。ひらがなで書いて、縦読みするとこうみんかんとなります。

Ｆ委員：前にシビックプライドという話も出ましたが、商標登録をされているので使用は控えたほうがいいかと思います。

　　　　Ｂ委員：これは自治の担い手と共有する、地域づくりにつなげるということでしょうか。

　　　　副議長：人材育成は人材育成なんですが、こんなやり方があるということを西山さんと大里さんに聞くというイメージで考えています。

　　　　Ｆ委員：全国的には塾やラボという表現もよく使われている気がします。

　　　　Ｂ委員：「できるから考える」というのはどうでしょうか。できない理由を考えるのではなく、できる方法を考えるような視点も必要かと思います。

　　　　副議長：以前、部会でも話題に挙がりましたが、「なぜ公民館は暗いのか」というのもタイトルとしては面白いかもしません。

　　　　Ｃ委員：それは、照明の関係で暗いという意味合いでもあったんですが、今回の件でいうと公民館は動いていないと言わずに、今でも頑張っているというのがあると思うので、今よりももっと楽しくなる、よくなるというニュアンスが伝わればいいと思います。

　　　　Ｄ委員：県社会教育研究大会で発表のあった「公民館は面白い」というタイトルも個人的には関心を持ったタイトルでした。

　　　　副議長：我々は関心を持てるんですが、世の中の人たちに響くかというと難しい部分かと思います。

　　　　　議長：一定時間を区切って自分たちで考えてみて、案としては８つ出ましたが、なかなか納得のできるものは出ていませんので、大里さんにこの状況をお伝えして、アイデアをいただけるように事務局から相談いただくということでよろしいでしょうか。

　　　　　一同：異議なし。

　　　　事務局：承知しました。周知の都合もありますので、年内に何かしらのアイデアをいただけるよう取り急ぎ相談をしたいと思います。具体的なレスポンスがあれば、また共有させていただければと思います。

　　　　副議長：過去の議事録にもヒントがあるかもしれませんので、再度目を通したいと思います。

　　　　　議長：後日でも構いませんので、何か思いついたことがあれば事務局までご連絡をお願いします。

５．その他

　　　（１）会議日程の連絡及び調整について

・第５回定例会の日程について、２月２日（金）午前10時15分から東部公民館（東陽中学校併設）の大集会室にて行うことを連絡。

・第６回人材育成事業企画部会について、１月９日（火）か16日（火）のどちらかで調整することとし、後日書面にて案内することとした。

６．閉会　副議長挨拶